

4-05 その人らしさを重視した作業療法の実践 ～症状緩和・QOLの向上がみられた症例について～

○荻部 直寿(OT)¹⁾³⁾, 佐平 安紀子(OT)²⁾, 田浦 康代(OT)³⁾

- 1) 医療法人社団南淡千遙会 ケアホーム南淡路
- 2) 社会福祉法人関西中央福祉会 平成リハビリテーション専門学校 作業療法学科
- 3) 医療法人社団南淡千遙会 南淡路病院

Key word : 生きがい, 役割, QOL

【はじめに】今回、施設入所後に臥床傾向・意欲低下、夜間せん妄等がみられる認知症の症例を担当した。趣味や気質を活かし、個別性に配慮した実践を以下に報告する。

【症例紹介】80歳代男性。主訴は「暇で仕方ない、夜はよく眠りたい」であった。職歴は農家、鉄工、大工、趣味はカラオケ、機械、釣り。診断名は老年期認知症、糖尿病、慢性心不全。X-1年、尿路感染症にて体動困難となり自宅より救急搬送。症状改善し自宅復帰するが、家人への暴言・暴力、自宅内での溶接作業等で危険行為がみられ、X年、当施設入所となる。本報告について、十分な口頭と紙面での説明を行い、症例およびご家族の同意を得た。

【作業療法評価】

全体像・個人因子：全体像は、孤立傾向だが声掛けに対し笑顔で会話可能。食事、入浴以外は臥床傾向で時に夜間せん妄あり。興味関心チェックリストでは、してみたい、興味があるに「カラオケ、将棋、書道、草抜き」が該当。役割生きがいチェックリストより、趣味や他者貢献に強い価値観を抱く傾向があり、家人から以前は宴会隊長と呼ばれていたとの情報があった。意思質問紙(以下VQ)では、カラオケは44/64点、将棋は36/64点、書道は32/64点、草抜きは32/64点。**心身機能・構造：**長谷川式簡易知能スケール(以下HDS-R)が17点。Dementia Behavior Disturbance scale(以下DBD)が22点。Neuropsychiatric Inventory(以下NPI)が10点。N式老年者用精神状態尺度(以下NMスケール)が13/50点。ウェルビーイングサインは、良いが2個、悪いが10個。

活動：N式老年者日常生活動作能力評価尺度(N-ADL)は31/50点。

【目標設定】

短期目標(1M)：日中活動性・意欲向上、孤立傾向改善。
長期目標(2M)：生活リズム・せん妄改善、QOL向上(望む生活の確立)。

【治療プログラム】

・朝の体操、整容活動(生活リズム、活動性、意欲改善)

・日中の趣味活動(活動性、意欲改善)・趣味活動の役割付与(QOL向上)

【経過】

第1期(1～2W)：意欲低下が目立つ時期

趣味活動に参加するが、活動外は臥床傾向であった。

第2期(2～4W)：活動性向上みられた時期

定期的な活動提供にて時間の見当識が改善し、時計やカレンダーで自己管理可能となった。体操や歩行等の自主訓練も行い、日中臥床傾向が減少した。

第3期(4～8W)：QOL向上みられた時期

日中臥床は目立たず、夜間良眠でせん妄なし。意欲は改善し、役割行動にも積極的。草抜きでは、「あそこも抜いた方が良い」と発言する等、主体性が増加。

【結果】

個人因子：VQでは、カラオケは61/64点、将棋は56/64点、書道は60/64点、草抜きは64/64点。

心身機能・構造：HDS-Rが22点、DBDが15点、NPIが0点、NMスケールが27/50点。ウェルビーイングサインは、良いが10個、悪いが0個。

活動：N-ADLは33/50点。

【考察】症例は施設入所後、意欲低下・生活リズムの乱れ・夜間せん妄等、精神状態不良となっていた。症例は気質的に趣味や友人関係、他者貢献に強い価値を抱き、生きがいとしていた事が伺えた。営んできた生活と施設生活との差が多く、リロケーションダメージから、生活意欲の低下、生活リズムの乱れ、BPSD増悪に繋がっていると考えた。以上を踏まえ趣味活動の機会を増やす、その中で他者貢献に繋がるような役割付与の方面から作業療法アプローチを開始した。結果、意欲・生活リズム改善、BPSD改善、QOL向上等、良好な結果が得られた。竹田徳則(2016)は、「認知症の人にとって意味のある作業であることが、その人らしさの発揮とBPSD改善につながる」と述べている。気質や趣味を生かし、生きがいのある生活に近づけた事が、上記の結果に繋がったと考える。今後も個別性を重視した認知症作業療法を展開していきたい。